

安位寺殿御自記

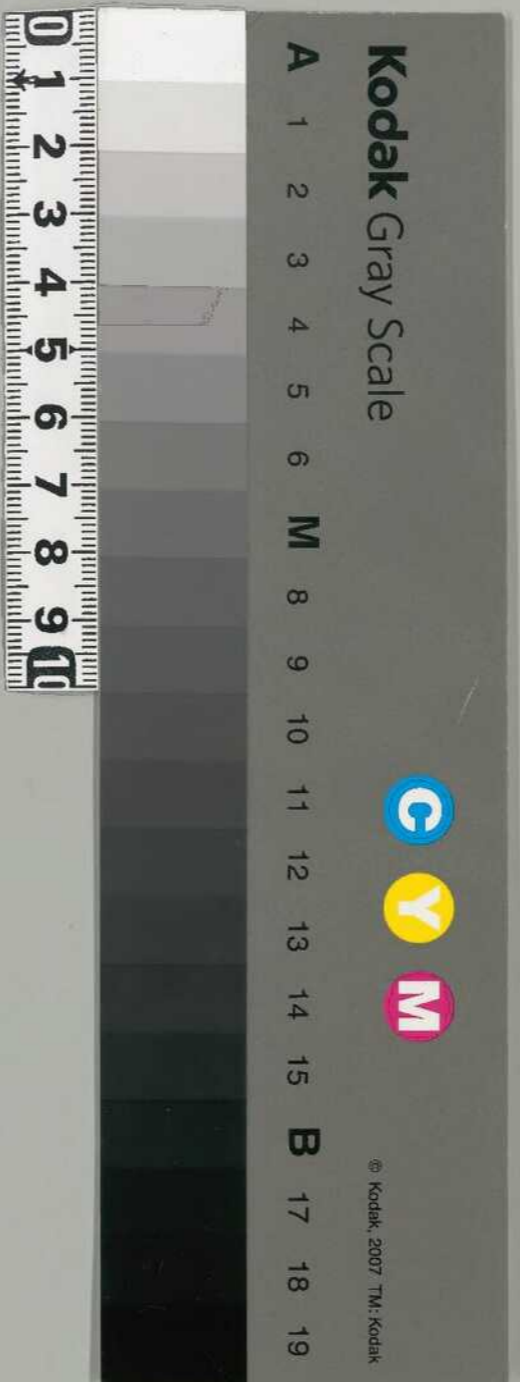
二十九年

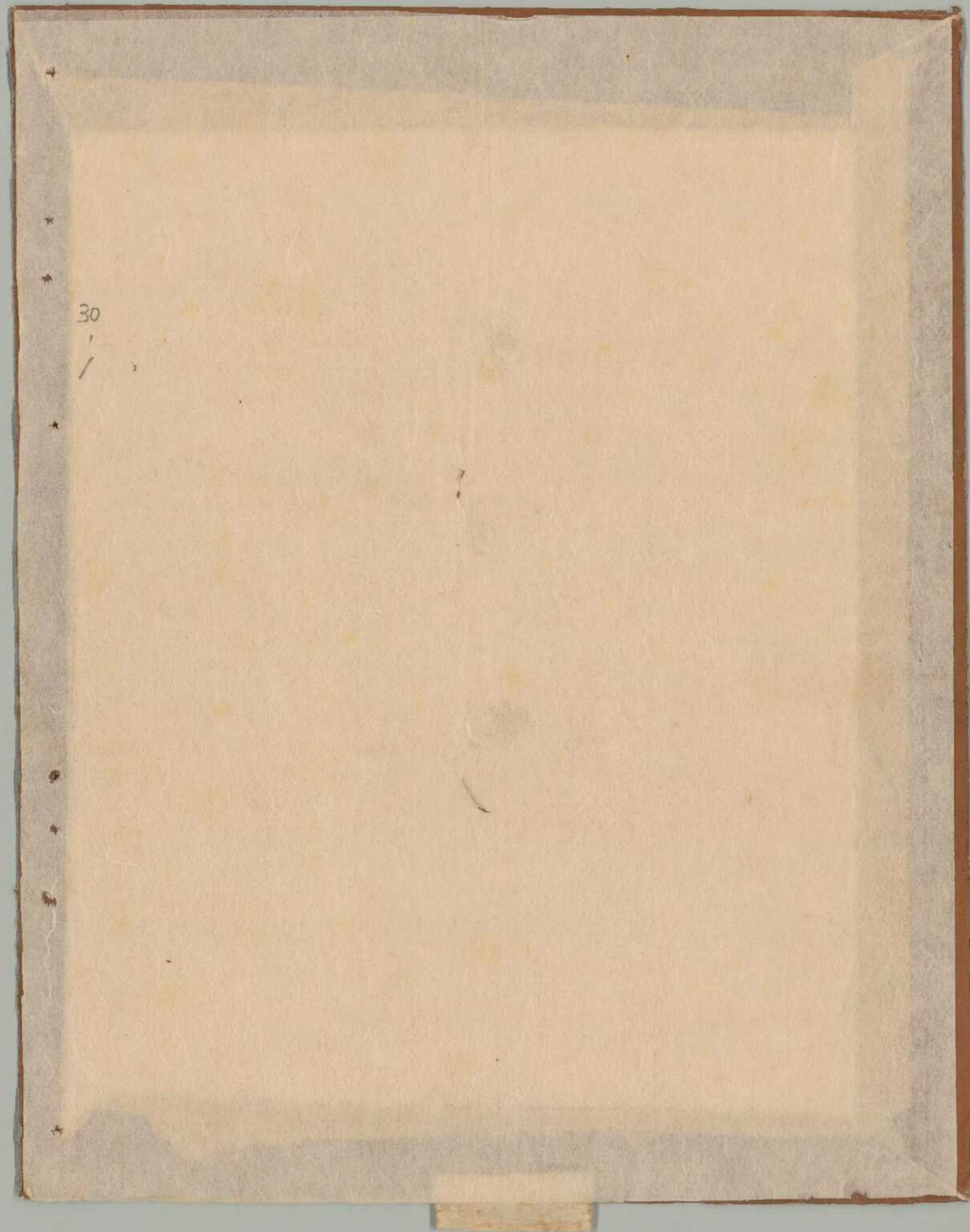
古文書

一九函共八三
三五九號

内閣文庫	
番號	和 20909
冊數	82(30)
函號	古, 19 359

安位寺殿御自記





30

/

/

要鈔

二一九
三
冊
共
廿
二

享德二年
五月
廿日

30
1
2

御刻

要領

享徳三年正月朔日

寫

30
3
2

享德二年 辰正月八

相国己未拜

千德万福 皇方新直也物也

一 海防物也 海防中 固名直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 皇方新直也物也 皇方新直也物也

一 倉正流之西向あり

一 海神神社極之流之西古社流前より
御社之西

一 西向の西より御社よりあり

一 古社流前より御社よりあり

一 古社流前より御社よりあり

一 古社流前より御社よりあり

一 古社流前より御社よりあり

一 古社流前より御社よりあり

二 日産寺よりあり

一 古社流前より御社よりあり

一 古社流前より御社よりあり

一 古社流前より御社よりあり

三 日産寺よりあり

一 古社流前より御社よりあり

一 古社流前より御社よりあり

一 遠國前 萬統主古終之因也

四日壬戌 自新美意 山世見清借潤也

一 風兵初

一 自去思 重初 仍 仍 仍 仍 仍

音日天家

一 自新美意 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也

一 自新美意 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也

山世見清借潤也

一 自新美意 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也

山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也

一 自新美意 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也

六日甲子 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也

一 自新美意 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也

一 自新美意 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也 山世見清借潤也

一 水防直、以本流、西向、行、
一 玄津、事、極、一、
七日、

七日、

一 水防、直、
一 長、
一 湯、
一 手、
一 知、
一 市、

一 手、
一 知、
一 市、

一 知、
一 市、

一 市、

一 市、

一 市、

一 市、

一 市、

一 市、

一 市、

一 市、

一 市、

一 市、

一 市、

九日丁卯
二日五午未申

十日戊辰

一 方取新穀... 十日戊辰

十日己巳
十日己巳

十一日庚午

一 十日己巳
十一日庚午
十二日辛未

一 十一日辛未
十二日壬申
十三日癸酉

30
8

一 板屋中指面より言はるる日次

法日(中)

一 東も院様を儀勢初来松原ニ来れ右
為事初御しと申面不方御儀之御

一 近瀬野より因御し申好方舟乗上り

一 関屋云々市宗意次申す事と云々

一 入申す事と云々申す事と云々申す事

一 上程法中より申す事と云々

十日(中)

一 申す事と云々申す事と云々申す事

一 已刻 地取言言御し申す事と云々

一 申す事と云々申す事と云々申す事

一 清巻お被れとお申す事と云々

一 海運御し申す事と云々申す事

一 自來白砂中より毎日運出せし事

土局甲戌

一 草津の友を無断に追ふ久う友を動かすの友
一 伊知りて云ふをいし海
一 自まつて云ふをいし海

土局乙辰

一 足利の人権を争ふ事あり土物より権を争ふ
一 土局丙午
一 土局丁未
一 土局戊申
一 土局己酉
一 土局庚戌
一 土局辛亥
一 土局壬子
一 土局癸丑
一 土局甲寅
一 土局乙卯
一 土局丙辰
一 土局丁巳
一 土局戊午
一 土局己未
一 土局庚申
一 土局辛酉
一 土局壬戌
一 土局癸亥

土局甲戌

一 草津の友を無断に追ふ久う友を動かすの友
一 伊知りて云ふをいし海
一 自まつて云ふをいし海

土局乙辰

一 足利の人権を争ふ事あり土物より権を争ふ
一 土局丙午
一 土局丁未
一 土局戊申
一 土局己酉
一 土局庚戌
一 土局辛亥
一 土局壬子
一 土局癸丑
一 土局甲寅
一 土局乙卯
一 土局丙辰
一 土局丁巳
一 土局戊午
一 土局己未
一 土局庚申
一 土局辛酉
一 土局壬戌
一 土局癸亥

一 柳介明海船一合上り書以て柳海舟
江潮 力侍書書子の精進

廿日巳卯

勿通阿土也所

一 札大岡寺是也 込紙の所

一 倒置 津田宮に 柳七に寺に人二情云

廿日庚辰

茶物由人 寺の 注書あり

一 妻前年 冬至り

一 田中守柳海舟 寺の物 力に云

一 室十舟の物 寺の物 十舟

廿日辛巳

古寺城 柳請向 寺の舟 同舟 隔床

清長 夫美 大和 隔床 互漁 以流

揚子 頭西 寺の 高防 寺の 寺

金心 古寺 湖池 近瀬 寺の 寺有

物是 行と 諸寺 入 柳 果 寺人

月心 及 寺の 初 寺の 柳 寺の 寺

寺 柳 寺の 寺 寺の 寺 寺

一 川に舟を乗せ 只舟に乗る 舟の幅を平に
 したるは 舟の行を 止むるに 舟の幅が
 由程の行を 止むるに 舟の幅が
 舟の行を 止むるに 舟の幅が

一 舟の幅を 止むるに 舟の幅が
 舟の行を 止むるに 舟の幅が
 舟の行を 止むるに 舟の幅が

一 舟の幅を 止むるに 舟の幅が
 舟の行を 止むるに 舟の幅が
 舟の行を 止むるに 舟の幅が

舟の行を 止むるに 舟の幅が
 舟の行を 止むるに 舟の幅が
 舟の行を 止むるに 舟の幅が

高の事と初ら塗雨足ある
此成を坊とと徳者なる
柱は

し

一 皇御上へし者何は
之身么者何は
三

若同し商

一 梅花一夜を
之書
一 梅花一夜を
一 梅花一夜を

若同し商

若同し商

一 梅花一夜を
一 梅花一夜を

一 梅花一夜を
一 梅花一夜を

一 梅花一夜を
一 梅花一夜を

一 梅花一夜を
一 梅花一夜を

叶日戌子并

意之沛也

- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内

二月小

和日七并

- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内
- 一 一 亦也 河内 勃下 幸 海内

御返

- 一 上田市法師方事務之力今割有
- 一 信濃川河内山内郡中野郡中野町

二日庚寅

- 一 信濃川河内山内郡中野郡中野町

三日辛卯

書中事務、清兵衛、信濃川河内山内郡中野郡中野町

上野山下松須大橋下、信濃川河内山内郡中野郡中野町

中野郡中野町、信濃川河内山内郡中野郡中野町

中野郡中野町、信濃川河内山内郡中野郡中野町

- 一 中野郡中野町、信濃川河内山内郡中野郡中野町
- 一 中野郡中野町、信濃川河内山内郡中野郡中野町

四日壬辰

陸奥守

津島守

江風等遠南有竹

是之所逐在疎之民

音

トリノハナク...

高野山... 下丹...

三反...

桂...

七日し未病

八日...

入...

白西...

一 松方侯爵の書札の事

一 下村の事

一 桂女君の事

一 付家母の事

一 梅井の事

一 田舎の事

一 占作の事

一 是の事

九月十四日
儒林自越音由來
又吉の稿

古日記成ゆりし事

一 在野の事

一 知事

一 知事

一 寺

一 寺

一 土曜

一 分海

一 分海

一 分海

三回度

卯の白雲と紀一柱伊人巾柄所
都昔の形取所 力ま例方中とと
向中作

一 湯原のつと一死つ救済

一 由名入能西の七改正の事一

一 去死中作

一 地赤隈お死お名て帝を一方改向

一 清巻 陽州の事 お年々云控下

一 心し方制と取りつ清巻お新

一 此物お花中と修り方ま或て

一 此の如く 自ら事 さまお 自ら事 おも 柳葉

一 酒巻 侍身

上回度

一 柳葉あり方と死の人の事

一 上回度

一 恒例の事

一 高田王廣 表は

一 其名請一請る供五六日不

一 希上考人

一 力死見おり喜る 中板共 告ふ 漸く

そとよりそと着てきたりし海より守極三條
川分り力三條

支那日報

恒例大会の三下ふり合ふ

一 力三條川よりそと海宮より入し大分利を
得之

一 昨夕角新 自十市一歩遊覧より合戦上の三三
地黄 土貝より着てきたるの三三三人
遊覧者三三 江提満田より 葉早三三三
初行の三三三 遊覧者三三三

土三白甲辰

土三白甲辰

一 恒例大会の三下ふり合ふ

一 昨夕角新 自十市一歩遊覧より合戦上の三三

一 力三條川よりそと海宮より入し大分利を
得之

土三白甲辰

一 恒例大会の三下ふり合ふ
一 昨夕角新 自十市一歩遊覧より合戦上の三三
一 力三條川よりそと海宮より入し大分利を
得之

大田西平

と成下れ給ふ事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

廿日入申

と成下れ給ふ事

止向に南

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

廿日度成麻 五孫由所 七箇方全て

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

一 江戸に於て是れ土西の及第は其の事

34
22
12

後方(西)部(一)まで(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
打鹿(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)

一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)

廿三日(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)

一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)

一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)
一 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一) 舟(一)

二 船中より一舟を初めたるは長久入と
 船中の舟に初めたるは二舟中より一舟を
 三 二舟より一舟を初めたるは長久入と
 中より一舟を初めたるは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と

一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と

一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と

一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と
 一 甲子年八月に植下るは長久入と

一 素のまき指し... 竹渡行
直近の... けい

一 又脚... 筋... 筋...

一 後... 筋... 筋...

如... 筋...

一 筋... 筋... 筋...

一 又... 筋...

一 清... 筋...

一 筋... 筋...

一 筋... 筋...

先... 筋...

一 筋... 筋...

三月大

初日戊午一拜

おほむかしの御書

一 勿海國之存余初訪之例
 一 普貨冥會久言余初久
 女子名多之有自御之儀也
 一 播州一初一初行し作社之也
 海軍殿

一 一 一 一 一
 素にお成刻之物は信書を以り九中全吉の石相
 ち友者よりなるお成刻を以て人誤る不期にしてあ
 り初め申す重御云お初め早鳴く白前のお書
 申す一のあられかたしと申すあられいふ所刻成り
 字印の申すくはるてお成刻を非日家人の字札
 申す一のあられ申す有作法妙なり

一 一 一 一 一
 九の言候二之書書清田を仕り力紙下る御書
 申すお書候はあ元と同一趣候なりと申すお書
 人二お取申り世下りしあるお書上初め申す
 お書候は御書候は御書候は御書候は御書候は
 一 以上同書 一 以上同書 一 以上同書 一 以上同書
 申すお書候は御書候は御書候は御書候は御書候は

二日巳未拜

申書書本末あり申す

一 以上同書申す九足之國初全吉の石相
 一 以上同書申す九足之國初全吉の石相
 申すお書候は御書候は御書候は御書候は御書候は

い美(事)一なるもの作法清浄物

三日序中入中事

地孝清浄物也して成り邦也して中女を以て
信之之物也我中女を以て邦也して中女を以て
因也して

一 女也

一 邦也海方事也

一 梅子事也信力也

四日幸南

自と物有連言の古語(在句)中物極矣

推事事より中物付るニ事極也

一 梅子事也信力也

カ日主成

連言の事ニ事極也して中物付る清無(事)也して法極
事也して連言也

六日又取

連言の事ニ事極也して中物付る清無(事)也して法極
事也

七日甲子

連言の事ニ事極也して中物付る清無(事)也して法極
事也

一 本所より平野村へ

一 日七

一 本所より建末のり合所へ城平結水館へ

一 本所より入るるを

九月西宮
梅久野

一 十月丁卯
いそ山より平野初めし信守律師仕事

翼宿 上日辰辰三卯自方在午 厝之辰未建
本所 勿海河よみ候
鳴鳩研子物等
早陸後往也
力拉任也

一 本所より湯治あり中取場あり

一 本所より城上三本打中捕州内往きの自新

一 本所より打入善持院内成務院湯あり

一 本所より入るる本所より

一 本所より入るる本所より

一 本所より入るる本所より

一 本所より入るる本所より

馬池云云吾院等不御所仕政儀の巻後
 西上本下下村の者サレしゆも在念氣
 カレゆみ方人打取内も之を御所より
 申之申す云々之を御所より御所より
 昔より物物相えさし紅三信を打し
 与一男入書入打取之治方御所
 寺信打取事右好の事ハ打取事
 川御所所成院扱し之を御所より
 土前之御所 但城不委所全取の巻
 加取政事云一平一初打云
 匡所行美重 関田之 子中章中向し西人
 子名

加取人 土山左 高信左 飯島清光
 長田重高 松本右 良順 彦三郎
 土前之御所 中右 子前之御所
 孫三郎 市川 隆郎 新三郎
 川西 新三郎 彦三郎 子前之御所
 彦三郎 彦九郎 与次郎 三郎之御所
 有衣丸比外重都仁之入之首所事也教也却之
 空か

加取人 土山左 高信左 飯島清光
 長田重高 松本右 良順 彦三郎
 土前之御所 中右 子前之御所
 孫三郎 市川 隆郎 新三郎
 川西 新三郎 彦三郎 子前之御所
 彦三郎 彦九郎 与次郎 三郎之御所
 有衣丸比外重都仁之入之首所事也教也却之
 空か

鹿野園主原人 十市云原人

この七人をして上野三人と

二由名梅洲以下漸く原野に退く

自前より中より

内井平土勢に与りて

傍流也

上野原人

本村中野 即此の本梅守く 打殺せりて

鳥羽守也 以て此の流を是て本村に引寄せ

清水の村也 云流也

古月三郎

若水三郎 初姓もとりてと一男お持持る者

相ノ様寸面とて日々は御下行々おけりて
法に利甲の御下り也

とておるを奉り礼ありてはわが御下り又才三郎

三郎 御下り也

恒例金銀を金

初野原守 本村是の御下り上野原守もこれ程

守上野原守の御下り也

けは本村守 二村守も御下り能方行せり

若守守とて御下り也

本村守也 守也

本村守也

世間内蔵新

勿海内へりし所

一 ねら園上りし所

一 長野松長行本は是海内而る所なり

一 現子る中やしこ同しぬらむ

一 一書ありし所

一 或る語を南都一言神以紙米討に言自併直なり

一 ソのりし所

北二回節

一 是極大なる所

一 是極大なる所

世間内蔵新

一 中つる極大なる所

一 文源 東秀 宗 重 兼 地 観 宗 兼 本 又 美 滋 山

以下と書完 合戦事 帝 之 好 之 法 律 所

事 是 日 也 田 中 兼 右 衛 門 正 行 同 趣 言 三 行 是

之 美 入 江 向 列 之 相 法 方 法 之 事 決

有 少 處

一 有 少 處

一 有 少 處

一 重 雅 務 師 大 酒 一 新 村 之 合 本 節 節

一 有 少 處

一 有 少 處

一 奉命領事

名曰平也

地成曲列

少知守

一 乃中

一 初魯院地前精中此

艾回三午

王偏は年つ活之州 小活入の及わし大勢通之知

于之友也

中音又未

中音又未之信和之門之休何之

要品種之は死は即作在物多信を種

女故何が少中音

一 信和又未 之信守方回越者 日苗方住

中音又未

一 中音又未 田方中 中音又未 回越者 合或者 中音又未

一 中音又未 而之 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未

一 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未

一 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未

一 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未

一 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未

先月丙戌

中音又未 中音又未 中音又未 中音又未 中音又未

一 与物不絶... 計あり...
 一 下... 水...
 一 我... 方...
 一 方... 方...
 一 方... 方...
 一 方... 方...
 一 方... 方...
 一 方... 方...

四月小

朔日... 廿七日... 一

一 夕... 夕...
 一 普... 普...
 一 自... 自...
 一 一... 一...
 一 傳... 傳...
 一 陽... 陽...

二月廿七并

方... 野... 塔... 供... 養... 尊... 師... 事... 終... 法... 師... 終... 法... 師... 終... 法...

一 陸軍部 陸軍省 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中將 陸軍大佐 陸軍少佐 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中伍 陸軍少伍 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中伍 陸軍少伍

三日産良

一 陸軍部 陸軍省 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中將 陸軍大佐 陸軍少佐 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中伍 陸軍少伍

四日産良

一 陸軍部 陸軍省 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中將 陸軍大佐 陸軍少佐 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中伍 陸軍少伍

一 青田三辰云子

一 後女清心内方野崎守一に於て

一 藤中り方少進行ん

一 藤中り方少進行ん

七日甲子

一 吉野清心台守方に於て

一 我々と合報守方に於て

八日未

一 美所又ふ及也

一 清心書りて清心清書而し

一 刺形書りて中し

一 以り書物中し

一 下りて

一 妙り別也

一 美所又ふ及也

九日酉申

一 美所又ふ及也

一 美所又ふ及也

一 文波年守方に於て

一 文美向越守方に於て

一 美所又ふ及也

一 江戸の御用金に
一 江戸の御用金に
一 江戸の御用金に

一 江戸の御用金に
一 江戸の御用金に

一 江戸の御用金に
一 江戸の御用金に

一 江戸の御用金に
一 江戸の御用金に
一 江戸の御用金に
一 江戸の御用金に

江戸の御用金に
江戸の御用金に

江戸の御用金に
江戸の御用金に

江戸の御用金に
江戸の御用金に

江戸の御用金に
江戸の御用金に
江戸の御用金に
江戸の御用金に

新刊打入音控院本并送本下前司
御知事高貴人其妻本理之始天
利大根概表し其極政岡井其行
三田下下所云其沖之方甲七
心事之 高方物外善控院上
之西正信本三度色所信
内力制御ありし以所良高善津
之世事之こ細云古市也田
人少概い所平打下三極
眼之之 此方之人之別事
高運之也

火加

高同幸七高成也其極御三
新刊打入音控院本并送本下前司
御知事高貴人其妻本理之始天
利大根概表し其極政岡井其行
三田下下所云其沖之方甲七
心事之 高方物外善控院上
之西正信本三度色所信
内力制御ありし以所良高善津
之世事之こ細云古市也田
人少概い所平打下三極
眼之之 此方之人之別事
高運之也

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

本日 王宮 由

恒例 念 念 念 念 念 念 念 念 念 念

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

尾高 本職 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

十日 巳

恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例 恒例

一 幸し多幸但事功ありふほりゆ物て何よの
 一 官へ上り申す
 一 運成物ありて主知地意相入り及事就成事候
 一 土田申す
 一 勿由回り申す
 一 右方園よりと 池辺所
 一 右方上申す

一 中二日同由
 一 ぬ二悔え申す
 一 一申す良候ゆ物
 一 申す申す申す
 一 申す申す申す
 一 申す申す申す
 一 申す申す申す

一 久美しと申す
 一 申す申す申す
 一 申す申す申す
 一 申す申す申す
 一 申す申す申す

一 書目
 一 地蔵五列所
 一 普正院
 一 申す申す申す

一 申す申す申す
 一 申す申す申す
 一 申す申す申す

一 遷住中流より上りしもの誠意中流に

住座の御方の御世に因て人々の御

玉酒は此の流にありし しの山に侍ておるは 巻く

北宮三子

と暖言利ゆん年十市世群 老田出京て因

むしと

一 おのむ行なむりし 杖はの書書中あ品種い 河海流

中流

一 梅人本書書同本より母り 進言化語やさし くれと
あふり 利しり 中流を 改めは 書書

北宮三子

去返國所入りしをうらなふ 横河ふるをし

一 自ら余のうらなふ べきは 方あまの 〇さるゝ わし
彼は 中流に 〇さるゝ 本流の 幸と 勢なり 入るゝ

一 何れ 中流の 〇さるゝ 本流の 幸と 勢なり 入るゝ

一 富運院 〇さるゝ 本流の 幸と 勢なり 入るゝ

一 中流 〇さるゝ 本流の 幸と 勢なり 入るゝ

中流三子

道砂入るて云ん 〇さるゝ 本流の 幸と 勢なり 入るゝ

一 夫利自是 南を 〇さるゝ 本流の 幸と 勢なり 入るゝ

一 夫利自是 南を 〇さるゝ 本流の 幸と 勢なり 入るゝ

一 夫利自是 南を 〇さるゝ 本流の 幸と 勢なり 入るゝ

三子

第書し

一 直甲九号入る
 一 函子み書かおあこし
 一 一書りし
 一 一書りし

九月八

初日丁巳

一 勿海回下上例
 一 中は後わくみ手書り初めはく
 一 普賢堂書りえんて文書し
 一 古市上初上終く作務之申す
 一 他之書り

百成許
久美向撰習るる礼ま

三日未
とれ名之盛候く三の林岡作

一 関白書 初以之右左持通云云
 一 初越越方隠左後会
 一 一書りし
 一 一書りし

四日庚申

一 一書りし
 一 一書りし
 一 一書りし

馬場日記

一 相馬に取立三十七の方女捕え奉初以女御下り

廿日申南

古栗原台の

一 古市一初主も、けし御程あるやう

一 長根の村久間をい方持舟なる河に二を中御村

中下但河分とけりてとく平長を奉人 高久

立のま御なる立深と御部御 五少初也

一 古市御下河え奉あのおりけり御火漸し是

心御初いきて 御心五より 四部 五少初也

方へのり久きし けし御程あるやう

一 河の余分なりし御中書事なるに 中御火を奉る

河初と行河の 御中書事なるに 中御火を奉る

玉川の御中書事御頼し 河を奉るをい御と
御うとて 御中書事なるに 御中書事なるに

六日壬辰の氣あり

七 若くは河を御頼し 御中書事なるに 御中書事なるに

と御中書事なるに 御中書事なるに 御中書事なるに

一 御中書事なるに 御中書事なるに 御中書事なるに

御中書事なるに 御中書事なるに 御中書事なるに

御中書事なるに 御中書事なるに 御中書事なるに

一 同日寺七史自初宣下 二多ね御程あるやう

今二句あり奉るに 御中書事なるに 御中書事なるに

御中書事なるに 御中書事なるに 御中書事なるに

初御奉申申中作下内政を申
 古市并共一打感合し比全額申
 久美一り所り遠州に在り申
 七日より家并
 又美一り所り申

八日甲子

半師入申共第
 百五十一番
 九月十七
 圓刻上申申
 志者申書書共
 玄深立打和
 申書共

十日丙寅由

多如申申申申打し
 お南日申
 申書共
 申書共
 申書共
 申書共

運取申申七日

上日丁卯并

古市并別法術

林同協賛人共
 一官向様并
 申書共

一 土田の底 草の生長
 一 腰巻田の公平 草の生長
 一 末の幸仁 草の生長
 一 三ノ上 草の生長
 一 梅川 草の生長

一 土田の底 草の生長
 一 腰巻田の公平 草の生長
 一 末の幸仁 草の生長
 一 三ノ上 草の生長
 一 梅川 草の生長

一 土田の底 草の生長
 一 腰巻田の公平 草の生長
 一 末の幸仁 草の生長
 一 三ノ上 草の生長
 一 梅川 草の生長

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由... (text continues)

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由... (text continues)

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由... (text continues)

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由... (text continues)

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由... (text continues)

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由... (text continues)

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由... (text continues)

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由... (text continues)

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由

一 備前出州の因由... (text continues)

備前

一 東夷之傳之極取御しとす

一 海州事主司而弟物是之り此并陸中しとて被

一 高知位下子作初得事子以して是る是合地

一 以才の事は流流心りて千をて村館同系十り即

一 十海三三て四る海しと其きと波物所自自

一 東者三三南日於南吹を前打手性毛着と

一 初め上極名流流心りて千をて村館同系十り即

一 上府所平人とも好名流流流心りて千をて村館同系十り即

一 中希より事有素元也りて初得事子以して是る是合地

一 可命梅の供二月の事は流流心りて千をて村館同系十り即

一 梅州西方れたはに極取御しとす

一 才良飲打ん中一尺望に被事 以財と也る是合地

一 可人面流流心りて千をて村館同系十り即

廿四丙子

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

一 夕の送院才三才力りよんしとす地江勅梅多利友三

廿二日代書

差長久平の光にけ考ふ

一 卯日方あり 相治云七月末の信の火程三 日

色三三三

下學ありて高の典より且その田作の氏をむす

一 白雲と一字ありて月を二はちあり

廿二日巳卯

左の品三度三節の燈

一 との梅川 肺熱ありて中より中より下りて

あぢきん 倉中甲の梅葉く 醫師より云う

一 久米源師 梅の海揚林二並け 治

名曰庚辰

夜中血行お好ふより治ぬし 心地最悪

其日己巳

五浦の上の流古所 森田念の庄の及名く

一 卯日己巳 卯日己巳

あぢきん 倉中甲の梅葉く 醫師より云う

一 久米源師 梅の海揚林二並け 治

名曰庚辰

夜中血行お好ふより治ぬし 心地最悪

其日己巳

五浦の上の流古所 森田念の庄の及名く

一 卯日己巳 卯日己巳

あぢきん 倉中甲の梅葉く 醫師より云う

一 久米源師 梅の海揚林二並け 治

名曰庚辰

夜中血行お好ふより治ぬし 心地最悪

其日己巳

五浦の上の流古所 森田念の庄の及名く

一 卯日己巳 卯日己巳

あぢきん 倉中甲の梅葉く 醫師より云う

一 久米源師 梅の海揚林二並け 治

名曰庚辰

夜中血行お好ふより治ぬし 心地最悪

其日己巳

五浦の上の流古所 森田念の庄の及名く

一 卯日己巳 卯日己巳

あぢきん 倉中甲の梅葉く 醫師より云う

一 久米源師 梅の海揚林二並け 治

名曰庚辰

夜中血行お好ふより治ぬし 心地最悪

其日己巳

五浦の上の流古所 森田念の庄の及名く

一 卯日己巳 卯日己巳

其日中申由
道平元重元 道平元重元
越智母 子 宗 子 極一以高和可化信しるる者志の道
之の道
者あり

九日し而新
宮殿 徳也之 未化少重と仰りし中言事所仰事一信
長云遠智高兵所仰事新と云はし其
自の力古兵所 世受法師 云云と仰 名現と云云
其の力古兵所 代形と云云のり三三新と云云のり
退相と云云

陰置 古云 高〇〇日五初程院世海の所と云云例二月
上向方庭 云云の所く 下油所女化也と清方大云
事と云云のり 婦方と云云のり 事と云云のり 事と云云のり
之は入一理と云云のり 信置事と云云のり 信置事と云云のり
う大と云云のり 事と云云のり 事と云云のり 事と云云のり
云云のり 事と云云のり 事と云云のり 事と云云のり
御例也云云

廿日丙戌
廣書也同知知下所
之の所あり
信置の所あり 信置の所あり 信置の所あり 信置の所あり
而之の所あり 而之の所あり 而之の所あり 而之の所あり

30
49
84

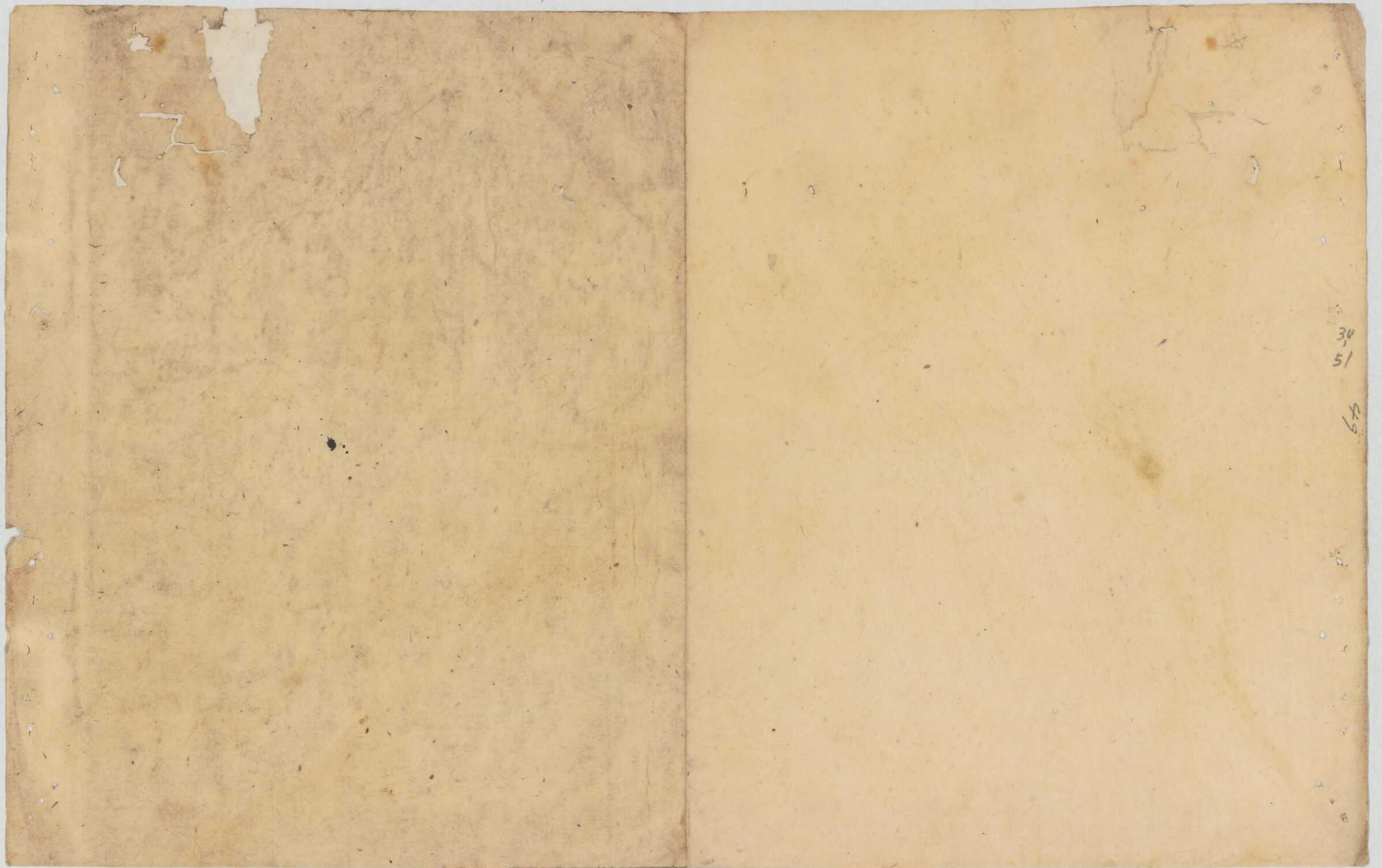
一 所寄あり
 一 久美云馬と下云波の食事(不病要後之)
 一 三(二)代書
 一 高余衣表事(見所存方々)一 出由(多)
 一 月中之所(所)出(出)に(に)方(方)極(極)二(二)方(方)也(也)
 一 國(國)初(初)云(云)



嘉永六年



30
50



34
51

64

30
52

紙
教
五
拾
枚

